

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 図書館

会議の名称	令和元年度第2回図書館協議会		
開催日時	令和元年11月19日(火) 午後4時00分～5時30分		
開催場所	茅野市図書館 2階会議室		
出席者	矢崎智義委員長、岩崎和子副委員長、両角薫委員、下平香代子委員、轟洋太委員、百瀬るみ委員、矢崎進一委員 山田教育長、平出生涯学習部長、藤森生涯学習課長、辻井図書館長、濱主事		
欠席者	原猛委員、三代沢正委員、田村満理委員、伊藤英一郎委員、戸田茂生委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
生涯学習課長 教育長	<p>1 開会</p> <p>2 審議会の公開について ※会議の公開及び非公開事項について説明。 本日の会議については公開とすることを決定する。</p> <p>3 教育長あいさつ 今日は上半期の図書館運営についてご審議いただきたいのと、図書館の今後について意見を出していただき、参考にさせていただきたい。学校評価のアンケートを見てみると、家に帰ってからの読書がとても減っている。子どもたちの生活が忙しいのか、家庭で本を読む環境がないのか、それとも別の要因があるのではないかと。といったところをもう一度考えてみたいと思う。家庭読書の大切さはここ10年くらいずっと言われ続けていること。保育園の無償化の中で、延長保育も無償化になった。夜の19時まで子どもさんを預けて、お母さんが迎えに行き、ごはんを食べてお風呂に入って、おやすみとなれば親子のふれあいの時間がいったい何分あるのか、その中で本を読むなんてとても無理な話なのだと思う。アメリカでは学校の中で、ノートパソコンやタブレットが大きく普及してきたら、図書館が閉鎖されてしまった、蔵書を大量に処分してしまった。というような学校や、都市・町が出ているという記事があった。タブレットなどで本を読むことと、紙のものを読むことのちがいについてはあまり言われていない。なぜ図書館があるのか、図書館の大切さとは何かを頭に入れていただきながら、今後の図書館について10年先を見越してどうしたらいいか、教えていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>4 議題 (1) 令和元年度上半期図書館運営報告 辻井図書館長より上半期図書館運営について報告。</p>		

生涯学習部長	定例のおはなし会とは何時から何時までやっていたか。
図書館長	10時30分から11時までと、11時から11時30分まで。午前中にある。
生涯学習部長	午後やらないことには何か理由があるのか。11時から12時までが親子連れが一番多く来るとどこの図書館も統計は出ているが、午後の買い物に行くときに合わせて午後開始を試してみるとういことは考えていないか。
図書館長	カウンターの状態を見ていると、土日は開館してからすぐ来る方たちが多い。午後のお昼から3時までの間は一般の利用者さんも少なくなる時間帯。
委員	午後子どもはお昼寝しなきゃいけないと思う。
図書館長	午前におはなし会に参加して、その後外食をしてお出かけして帰るというパターンの方が多いように見受けられる。
委員長	入館者のデータはあるか。
図書館長	玄関でカウントしている入館者数がある。これは入って出で1人とカウントしているもの。お子さんを抱っこしている場合や連続して入ってきた場合など、1人とカウントしている可能性はある。
委員長	時間帯別の入館者数のデータは取っていないか。
図書館長	取っていない。
委員長	公立諏訪東京理科大学の市川先生が開発したカウントする機械が安価でできるということを新聞で見た。聞いてみてもいいかと思う。
図書館長	<p>(2)図書館の今後について</p> <p>茅野市では今後の人口減少、高齢化、財政状況を見据え、様々な公共施設をこれからどうしていくかという『茅野市公共施設再編計画』が進行している。図書館だけでなく、各地区コミュニティセンターや公民館など広く対象になっている。施設の建設や複合化・場所などについては現段階で具体的な話が出ているわけではなく、まずどのような施設が必要になるのか、期待されるかということから検討していくという状況である。図書館については協議員さんにもいっしょに検討していただきたいということで議題に上げさせていただいた。</p> <p>まずは茅野市図書館について現状を把握していただいた上で、これから先の図書館についての方向性を考えていければと思う。</p> <p>今回は経過についての説明と、茅野市図書館の現状についての資料をご確認いただき、今後ご意見をいただく形にできればと考えている。</p> <p>担当課より1月19日の市民ワークショップで図書館について検討されるようになったと連絡があったので、現時点ではこのような計画を立てた</p>

生涯学習課長	<p>が、今後そちらの進行によっては変更がある可能性がある。</p>
図書館長	<p>アドバイザーの先生が言われることは、今現在、茅野市図書館に求められる役割はなにかということ。それを協議員さんと検討できればと思う。</p> <p>今後については、この検討についてどういったことが話し合われて、どのような意見が導き出されたかを、定期的なインタビュー調査を受けていくようになる。</p> <p>10年後の茅野市を考えたときに、図書館に何を期待するか・図書館は何ができるかということも考えていく必要があるかと思う。みなさん自分の関わる範囲で図書館に期待していることはどのようなことか。期待に応えるためにはどのような機能が必要かを検討していけたらと思う。期待するものの中で、図書館以外で既にその機能を持っている施設があるかどうか。その後の検討になると思うが、期待される機能を果たすために必要なことは何か。など何を期待されているかというところの洗い出しができればと思う。以上が本館についての検討になる。</p> <p>分室については難しい問題もあるが、分室の機能としてどのようなものが必要とされているかというところを洗い出したいと思っている。分室は各地区に図書館の分室として開室してきたが、その後地区こども館と併設になっている。今まで利用対象を子どもに限定していたわけではないが、学校が近いことや、以前学童保育は小学校3年生までだったことから放課後の居場所としてお子さんの利用場所ということで定着した。自力で本館まで来られない利用者としてお子さん、移動図書館車を利用していた高齢者を想定した蔵書構成としてきたが、現在は主に利用の多いお子さんの本の比率が高まっている。市内全ての小中学校の図書館に司書が配置され、蔵書の充実、開館時間の増加などによって、学校図書館と分室では利用対象や蔵書が重なるのではないかと。という意見が出されるようになってきた。地区こども館とは切り離して検討することとして、各分室へ期待する機能は何か。期待される機能を果たすために必要なことは何かということについても今後検討していければと思う。</p>
委員長	<p>1月19日の市民ワークショップでの図書館についての検討とは、何をするのか。</p>
生涯学習課長	<p>主要な施設について市民の方から公募及び抽出された人が意見を言うもので、図書館を利用したことがない人からも意見を聞くようなもの。</p>
委員長	<p>公共事業を将来再編に取りかかるために、図書館についてどういうあり方が理想的なものかを話せばいいか。</p>
生涯学習課長	<p>そういうことでいいと思う。今後の図書館に求められる役割とはどういうことなのかを見直すというような意味合いでいいと思う。</p>
生涯学習部長	<p>茅野市にとってなぜ図書館が必要なのかをしっかりと言えればいいということ。</p>

委員	<p>民間活力を活用した管理運営手法のことはその次の検討ということだが、いっしょに考えないと滞在空間はどのようによくなるかということとは、なかなか今ある現状の中で考えることは難しいように思う。切り離せない部分も多少あるように思う。</p> <p>また厳しい予算だと思うが、閲覧室でこれから受験生が多く利用する時期、燃料費を削られて寒い中で勉強することは、あまりにも酷なことである。そういったところの予算はつけていただきたい。快適な環境で勉強ができるような空間作りも必要ではないかと思う。</p>
委員長	<p>滞在型の図書館は増えている。滞在できれば図書館でなくてもいいというところは少しある。図書館が持っている本来の役割の中で、何をもっと強化して、他に何を入れていくかは難しい課題。いつまでに意見を出せばいいのか。</p>
生涯学習課長	<p>3,4ヶ月ぐらいのスパンでこういったヒアリングがある。次回は2月頃になると思われる。よって、年明けぐらいに意見をお聞きしたい。</p>
生涯学習部長	<p>東京の中では、入場料を取る図書館も現れてきている。そういった図書館もあるけれど、それは茅野市には合わない。という部分も出てくると思う。</p> <p>先日岡山県高梁市の図書館を視察しにいった。そこは指定管理者だが、蔦屋やスターバックスが入っており、予算を投資している桁がちがうと感じた。20億円かけて図書館を作って、指定管理者へ約1億5千万円払って管理してもらっている。予算に余裕があるならいくらでも蔵書を求めることはできるけれども、茅野市らしさや茅野市だからある程度ここまでしかできないという部分はあると思うが、今まで知と情報を大切に場所を育ててきたということを継続していくことが本来あるべき姿だとは思う。そこにプラスして茅野市の10年後にこういう空間があれば、こういう立地条件があればもっと図書館に来れるはず。というような意見でもいい。</p>
委員長	<p>図書館の大きな問題は、本をいくら買っても置いておく場所がないことだと思う。これはもったいない話で、買った本を買った分だけ捨ててくたはいけない。もっとスペースがあればいっぱい置けるのだと思う。</p> <p>もうひとつは、せっかくノウハウを蓄積したのに、異動しなくてはいけない。それは市民にとっては大きなマイナスじゃないかを感じる。</p> <p>本の貸出などの業務を機械化にすればもっと市民との間に人が立てるようになると思う。そういうようにしていかない限り、いくら資料があっても無駄だと思う。そこは今後改善の余地があると思う。</p> <p>今まで図書館は民主主義の根幹で、市民のレベルアップには大事という話を散々してきたが、最近それが当たり前になってきてしまっている。滞在型や複合型、駅前に図書館を持っていくことなど、図書館とまちづくりという視点が出てきている。図書館もまちづくりの大きな要素として取り入れて、そこに投資をして人を集める、集まってくる。図書館が持っているそのままの機能というよりも、市の施設として例えば病院や公民館とち</p>

がって、人がフラッと来られる、誰が来ても良い、いつも開館しているというような施設の使い方として、まちづくりの根本にそれを持ってくる。そういった図書館のあるところに住みたい。というような人が出てくる。図書館にはそういった使い方もある。

図書館に関係してる人が一生懸命やらなくてはいけないことと、まちづくりの観点から図書館を見る人では少しちがうと思う。

ベストセラーにもなった『未来の年表』という本には、10年後には3軒に1軒が空き家になる。女性の半分以上が50歳以上になる。といった話が出てくる。確かにそういう状況があって、茅野市も例外ではないからどんどん人口は減っていく。その状況下で図書館では何ができるのか考えれば、年寄りが多くなるなら、病気などのお年寄り向けの本を増やすなど対策はできると思う。病院とタイアップして病気の相談コーナーを作ったり、体験談の本を置いたら評判が良かったなど実際に行っている図書館はある。

考えてみたが10年先、20年先になって課題が出てきてもそれに対応できるような図書館にしていけばいいのではないかなと思う。そんなシステムをうまく図書館の中に持ってきて、市民が何を望んでいるのか。それに答えるにはどうしていけばいいのか。そういう組織をつくっていく、それには人が欠かせないからその人をどう育成していくか。もし駅前開発があるとすれば、その中に複合施設も入れていき、図書館も含めた滞在型にする。まちづくりのひとつの要素として、図書館もうまく利用してもらおう。考え方を分けてやっていけたらと思う。

みなさん今日初めてお聞きになったと思うので、また何回かかけてこういった話になっていくと思う。当然将来、茅野市は人が少なくなる、お金も少なくなる。そのような中で、公共施設はどう考えなくてはならないのか出てくるはずだと思う。図書館としてはどういった方向に持っていくのか、それぞれのお立場で意見を出していただければと思う。今まで協議員さんは教育関係の方が多かった、今年は工業・産業関係に明るい委員さんに入っていたので、そういった方々から意見をいただければまんべんなく意見が集まると思う。

ひとつひとつを言葉で、こういったことをやって、茅野市はこれを目指していますよ。といったような1つの文章を作っていけるような形にしていけば、我々も他者もいっしょに理解できると思う。

地域課題解決のための学習支援のためとあるが、公民館もゆいわくもみんな地域課題のために様々な策を練って行っている。しかしこの学習支援という言葉が図書館らしい言葉だなと感じた。市の中で少子化などの話が出ているが、そういったときに子どもたちにとって信頼される、頼れる図書館というのは、暖かくて勉強しやすい部屋を作りながら、子どもたちは学びながら先の就職や、学ぶ場所探したとかそういったものの情報が茅野市にはない。中学生までのところまでは厚くなっていきっているが、その後の進路を探して迷走していく若い世代の子どもたちにとって、これから先どう生きて行ったらいいのだろうか。と思ったときに就職先はこの身近な茅野市にはあるのだろうかといった支援が図書館はできる場所ではないだろうかと思う。本ばかりでなく、地域の会社の情報を集めることも図書館の役割だと思う。例えば学習支援室のようなところに行くと、何をどう学

副委員長

	<p>んだらいいのか具体的な資料がそこにはある。そういうような信頼される、頼られる図書館構成がなにかできていくのではないかと思う。子どもたちは将来茅野市の中で仕事を見つけることができるかもしれない。今茅野市にはないのでみんな外にまで見に行ってしまう。茅野は住むところ、学ぶところはちがうところ。と生活をかつてはしていた。茅野市の中でそういったことができたらいいのではないだろうかと思う。</p> <p>子どもの読書離れの対応については、茅野市で育っているという感覚がないように思う。茅野市の神社など由縁のある場所のことを大人も子供も知らない。そういったものを文章で残せたらと思う。小さな本がいっぱい出来ていけば、大きな地図のようになり、茅野市のこの場所にはこんな話があるんだって。ということが子どもも大人も言えるようになると思う。それぞれの地域での話をどこかでまとめる人がいるが、口火を切るのは図書館なのではないかと思う。そうすれば、保育園にいる間に茅野市の昔話を知ることができると思う。これは観光客にとってもとても有効なことだと思う。そういった本が駅、公民館などのいろんなところがあれば、手に取ってもらえると思う。図書館はそういったことを生み出す場所ではないかと思う。</p>
図書館長	<p>それはすでにやっている団体さんがある。PRが不足しているのだなと感じたところだが、八ヶ岳総合博物館・読み一む in ちのの関係で、茅野市の昔話再話はしている。冊子なども出してはいる。八ヶ岳総合博物館には玉手箱のような箱を開けると、お話が流れるというものを作ったりしている。</p>
副委員長	<p>話を作ったことと、その話を伝えることでひとつひとつが一生懸命になっていて、各地域の小さな話になっていない。ひとつの話が長く、しっかりとした話になっていた。</p>
図書館長	<p>割と再話したそのままを活かしてるかもしれない。</p>
副委員長	<p>言葉遣いなどももっと普通の言葉でいいと思う。</p> <p>基になる話はいくつもあるので、団体さんの方で作ったものをまとめて形にしていくような、子どもから大人までみんなが共通して知っているような茅野市のエピソードを連ねたものを作るきっかけ作り。それがこれからの図書館の使命だと思う。</p>
委員	<p>学校という立場から言うと、子どもの読書離れと学校図書館との連携というところが関わってくると感じた。今はスマホで本も読めるし、検索しようと思えば、人に聞かなくてもわかるようになっている中で、活字のものを見る大切さ、図書館とは何か違うのかを自分で考えてみた。</p> <p>図書館に来ると人と触れ合えて、職員に相談すれば窓口がどんどん広がって、様々なものを教えてくれると思う。図書館に来ることによって、人との関わりの中で本以外の情報も聞いたりできる。きっとその中に学び方や、これからの生き方、知らない情報の広がりが出てくるのだと思う。それが図書館なのだと思う。</p> <p>読書離れをどうするのかという問題については、今も朝読書はやってい</p>

て、例えば社会の時間で図書館が必要だったら、学習センターとしての図書館に行って、学習をするという形はとっているが、それが設定された学校図書館以外でも本を読んでいるかというところ、そういった子は少ないように思う。子どもに「市の図書館に行ったことある？」と聞くと、来たことがない子がすごく多い。それは学校図書館に読みたい本を取り寄せて用意してくれるシステム、分室でお家の方の迎えを待ちながら、本を読むということが位置づいている子もいるので、市の図書館に来ることばかりが図書館を利用することではないと思う。ただ設定された以外のところで子どもたちが本と触れ合っているかというところ、なかなか難しいと思う。

先週まで読書旬間をしていて、親子で読書の時間を取りましょう。ということをやっている、これから感想が集まってくると思う。普段家で本を読むかというところ、読んでいない子も多いと思う。それをどうしていったらいいのかというところ、学校の課題でもある。

学校図書館との連携という点については、現在のシステムが整ってきているので、すごくありがたいと感じている。10年後を考えたときに、先程おっしゃっていた50歳以上が増えたときには、学校図書館も地域の人を利用する図書館としてなっていけば、学校は地域のコミュニティのひとつになる時代になっていくと思った。学校図書館と市の図書館とのやり取りがある中で、地域の人や子どもがそういったところも利用しながら子どもと親とに話をしてもらって、学校も地域の人ともつながっていく。学校図書館は将来そうなるのかなと思った。

委員長

課題事項にこだわらず、今日は何が課題としてあげられるか考えたい。それについて意見を出してもらえればと思う。

委員

図書館は割と子どもの方には目がいているが、年が上の人にはほぼ目がいていないように思う。先程の語りのお話で感じたことだが、私たちはまだおじいちゃん、おばあちゃんに話を聞いている年代で、本は高いものだったから読むことができず、昔話などを聞いて育った。今の子どもはお年寄りや生活をしていないため、そういった環境がない。

お年寄りが子どもと触れ合えるような環境をおはなし会のような形でもいいし、よその家のおばあちゃんと遊ぶといったものが何かひとつあってもいいのではないかなと思った。以前そういった講座があったように思うが、

図書館長

定期的ではないが、実施したことがある。

委員

お年寄りも病気のことばかり考えるのではなく、生きがいを持つためにも子どもが楽しんで耳に残せるおばあちゃんが掻い摘んだ昔話を聞く環境があってもいいのではないかなと思う。

先日近所の方に「病気の際の食事はどういったものを食べた方がいいのか」と聞かれた。耳で聞くよりもそういった本がたくさん置いてある図書館へ行って本を借りてくればいいよ。という話をした。その方が「図書館にそんな本があるの？」と言っていた。そういった本が置いてあるということを知らない人は多いように感じた。カウンターでこういった本を読みたいといえども本を出してくれるよ。と伝えたが、最近みんな

委員

それぞれ会話を嫌がる、話をしなくなってきたように思う。電話の問い合わせが少なくなって、インターネットの問い合わせが増えてきているように話さなくても事が進むことが普通になってきているように思う。図書館は人と人が触れ合う場所であるということをもっと強調してほしい。

ホテルに行くとコンシェルジュがいる。図書館にも図書館コンシェルジュや図書館ソムリエといった名前のボランティアさんなどを配置すればなんでも相談でき、いっしょに本を選んでくれるように思う。

先程の昔話については、博物館でも茅野市の古老から話を聞いて諏訪地方の語り伝承をまとめた冊子をもうすぐ発刊する予定。これは聞きっぱなしのことを文章にしてまとめているので、民話や伝説に限ったことではない。何人かボランティアさんを集めて、茅野の民話伝説の本を作るということも考えていけたらと思う。

家庭読書については、小学校ぐらいまでに読書って楽しいということ子どもたちがわかれば、大人になって時間ができた時に、図書館に行ってみようと思ってくれる。本の楽しさや生きることは本を見れば学べるということをおわかってもらえたらと思う。

委員

自分のことを振り返ってみたときに一番本を読んでいたのは、小中高校生のとき。今の子どもたちはそこまで本は読んでいないように思う。電車に乗れば、昔は本を1冊持ちながら乗っていたのが、今じゃスマホに変わっている。この状況の変化はすごく大きいように感じる。本の魅力というものがインターネットのものより上回っていかないと、なかなかそこまでいかないように思う。その魅力をどう引き出すかということがひとつあるのだと思う。今茅野市では子どもたちがこれだけ本に親しめているということは素晴らしいこと。それが今の世代次の世代にどうつながっていくかということが課題なのだと思う。

図書館に行きやすいということの立地条件、図書館というと静かな場所であり本と自分が1対1になるところで、人との関わりというところがなかなか思っていなかったところ。

保育園でも高齢者との交流の場を増やしている。来ると必ず子どもたちからエキスをいただいて元気になりましたと言って帰っていく。そのようなことが増えていけば人との関わりも増えていくように思う。

御座石のことなど子どもに伝えることは難しい。言い伝えの話などは聞くが、子どもたちのためにそれを紙芝居にできないかなと思う。

保育園には司書がない。絵本の整備も保育をしている中では手を付けられない現状。どの園でもそういった現状ではないかと思う。そういった環境も図書館的には整備していかなくてはいけないと思う。このままだと子どもたちが手にする本の魅力も薄れてしまうように感じる。

委員長

今保育園では図書室のようなものはあるのか。どこに置いてあるのか。

委員

図書室はない。本は各部屋、リズム室などに置いてある。

委員

インターネット、スマホの普及、核家族などの時代的な変化を図書館がなんとかするのはちがう話であり、どうにかできるものではない。では何ができるのか考えたときに、そんな環境の中でも子どもたちの中には休み時間に本を読んでいる子もいる。学校図書館の貸し出し記録を個人別で見ると、借りる子は年間 200 冊読む子もいるが、最初のオリエンテーションで借りたたった 1 冊の子もいる現状である。なぜそんな差が出てくるのか考えると、読解力に差があるのではないかなと思う。

学生と生活をしている中で、様々な手続きがネットやスマホでできてしまうので、手間を嫌っている感じがする。手間をかけてまで本が読みたい、ほしいと思ったときはいつかと思い返してみると、高校生だった。その時の自分と今の子どもたちは何がちがうのか考えてみても答えは出なかった。どうすればそういった子に育てられるのかもわからないが、心当たりがあるとすれば環境が影響するのかなと感じた。学校の近くに図書館があればお迎え待ちで寄り添ったりする。学校帰りに図書館で受験勉強をしてお迎えを待つこともできる。

親や家族が本を見ている姿を子どもが見て、生き方の見本とすることもあるのではないかなと思う。

生涯学習課長

今日出された意見は図書館の方で議事録を作成し、まとまったところで今後の展開とさせていけたらと思う。今年中は難しいと思うので、年が明けたらという予定になるかと思う。今日は時間がなかったが、分室の関係もこのような意見を頂戴させていただく機会を設けなければならない。

委員長

課題の切り口を整理して、事前にみなさんにこの切り口について考えてください。といったような投げかけをしてから会議をした方がいいと思う。

図書館長

(3)その他

図書館の温水ボイラーを新しくした。このボイラーは閲覧室などの元美術館の方までは使えないが、以前よりは温度管理がしやすくなった。図書館設備も老朽化により少しずつ修理している状態。

以上をもちまして、令和元年度第 2 回茅野市図書館協議会を閉会といたします。ありがとうございました。